

平成30年4月25日
 東部農林振興センター 雲南事務所 農業普及部

標 題 木次町野菜加工品出荷組合総会を開催 「安心に向かってゴー！」

(ダイジェスト)

平成30年4月10日(火)、木次町野菜加工品出荷組合総会(事務局:JA雲南、会員数151名)の平成29年度総会が雲南市斐伊交流センターで開催されました。会議では生産履歴の徹底によるトレーサビリティの強化による生産者意識の向上を目指すことで地域に愛される直売所づくりをすすめることが決議されました。

JAしまね雲南地区本部における産直組織の販売額は29年度実績で約7億円を売り上げています。それを構成する木次町野菜加工品出荷組合は、木次地域の産直組織(木次とれたて市場)として、Aコープ木次店にて生産、販売、PR、研修活動に取り組んでいます。

販売実績の報告では、平成24年度に48百万円の販売額ピークをつけたあと減少し、29年度では34百万円と販売額の前年比88.2%に下げました。その原因として尾道松江線の開通とディスカウントショップ等の増加による環境要因や、夏の高温、冬季の低温などの天候不順による野菜の出荷量の減少などがあげられました。

今年度は、多様化する消費者ニーズに対応するため、「安全・安心」で「生産者の顔の見える」取り組みをすすめることと生産履歴の記録を徹底し、バーコードシステムをJAしまね統一システムによる新たな情報提供の仕組みづくりに取り組むことが決まりました。総会後の研修会として雲南事務所の鳥獣担当から「鳥獣から作物被害の防止に向けて」と題し講演があり、研鑽を深めました。

農業普及部としては、産直GAPを関係機関と推進し、生産者と農産物の安全性と信頼を高めるため、取り組んでいきます。



【組合長あいさつー「農業者も法令・コンプライアンスを守ることも必要」】



【総会後の研修会の様子】